科 目 名	総合日本語４－６Ａ Integrated Japanese 4－6A		新座
担 当 者	鹿目 葉子(Kanome, Yoko)		
開講学期	春学期	単位数	１単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を，日常生活のみならず，大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型，読解，語彙，作文，聴解会話について，広く扱う。総合日本語4-6A， 読解素材を軸とし，ディスカッションや発表，作文などを行う。テーマは主に，「観光」・「祭り」・「江戸」などを扱う。また，学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業と課題学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では，ディスカッションやグループワークを行う。 また，作文や読解などの宿題も課すため，参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要，「観光地」について考える。

2-5. 「観光地」に関する読解教材を宿題として読む。授業内では内容理解の確認とディスカッションを行う。

6-9. 「祭り」に関する読解教材を宿題として読む。授業内では内容理解の確認と発表を行う。

10-12. 「江戸」に関する読解教材を宿題として読む。授業内では内容理解の確認とグループディスカッションとグループ発表を行う。

13. 最終プレゼンテーション

14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

授業への参加度25%， 課題25%， 提出物25%，最終プレゼンテーション 25%

テキスト

第2～5回は，観光地に関する時事ニュースをもとにしたオリジナル読解教材を使用する。教材は，履修者の読解レベル（J4-6）に対応したものを用意・配布し，学生は自分のレベルに合った教材を使用する。第6～9回は，日本の祭りを説明した生教材を使用する。各自の興味がある祭りの読解教材を1 人 1つ選択する。第10～12回は江戸の文化について説明した生教材を小グループで読む。作文教材は，履修者の作文レベル（J4-6）に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

科 目 名	総合日本語４－６Ｂ Integrated Japanese 4－6B		新座
担 当 者	三浦 綾乃 (Miura, Ayano)		
開講学期	春学期	単位数	１単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を，日常生活のみならず，大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型，読解，語彙，作文，聴解会話について，広く扱う。総合日本語4-6Ｂでは，視聴覚素材を軸とし，ディスカッションや発表，作文などを行う。テーマは主に「若者の消費」・「子どものスマホ問題」・「男性の育児」などを扱う。また，学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業と課題学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では，ディスカッションやグループワークを行う。 また，作文などの宿題も課すため，参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要

2-4. 授業内に「若者の消費」に関する視聴覚教材を視聴する。内容理解の確認，ディスカッションを行う。

5-7. 授業内に「子どものスマホ問題」に関する視聴覚教材を視聴する。内容理解の確認，ディスカッションを行う。

8-10. 授業内に「男性の育児」に関する視聴覚教材を視聴する。内容理解の確認，ディスカッションを行う。

11-12. 発表準備

13. 最終プレゼンテーション

14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

授業への参加度25%， 課題25%， 提出物25%，最終プレゼンテーション 25%

テキスト

第2～4回は「若者の消費」に関する視聴覚教材，第5～7回は,「子どものスマホ問題」に関する視聴覚教材，第8～10回は「男性の育児」に関する視聴覚教材を使用する。内容理解のための教材は，履修者のレベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し,学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は，履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

科 目 名	総合日本語４－６Ｃ Integrated Japanese 4－6C		新座
担 当 者	鹿目 葉子(Kanome, Yoko)		
開講学期	秋学期	単位数	１単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を，日常生活のみならず，大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型，読解，語彙，作文，聴解会話について，広く扱う。総合日本語4-6Cでは， 読解素材を軸とし，ディスカッションや発表，作文などを行う。テーマは「若者」・「日本にいる外国人」などを扱う。そのほかのテーマを扱う可能性もある。また，学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業と課題学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では，ディスカッションやグループワークを行う。 また，作文や読解などの宿題も課すため，参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要,ステレオタイプについて考える。

2-7. テーマ1に関する読解教材を宿題として読む。授業内では内容理解の確認，ディスカッション，グループ発表を行う。

8-12. テーマ2に関する読解教材を宿題として読む。授業内では内容理解の確認，ディスカッション，グループ発表を行う。

13. 最終プレゼンテーション

14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

授業への参加度25%， 課題25%， 提出物25%，最終プレゼンテーション 25%

テキスト

第2～7回，第8～12回は各テーマの読解教材を使用。教材は，履修者の読解レベル（J4-6）に対応したものを用意・配布し，学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は，履修者の作文レベル（J4-6）に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

科 目 名	総合日本語４－６Ｄ Integtared Japanese 4－6D		新座
担 当 者	三浦 綾乃 (Miura, Ayano)		
開講学期	秋学期	単位数	１単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を，日常生活のみならず，大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型，読解，語彙，作文，聴解会話について，広く扱う。総合日本語4-6Ｄでは，視聴覚素材を軸とし，ディスカッションや発表，作文などを行う。テーマは主に「日本の四季」・「日本の伝統行事」などを扱う。また，学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業と課題学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では，ディスカッションやグループワークを行う。 また，作文などの宿題も課すため，参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要

2-4. 授業内に「日本の冬の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する。内容理解の確認，ディスカッションを行う。

5-6. 授業内に「日本の春の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する。内容理解の確認，ディスカッションを行う。

7-8. 授業内に「日本の夏の伝統行事」に視聴覚教材を視聴する。内容理解の確認，ディスカッションを行う。

9-11. 授業内に「日本の秋の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する。内容理解の確認，ディスカッションを行う。

12. 発表準備

13. 最終プレゼンテーション

14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

授業への参加度25%， 課題25%， 提出物25%，最終プレゼンテーション 25%

テキスト

第2～4回は「日本の冬の伝統行事」に関する視聴覚教材， 第5～6回は「日本の春の伝統行事」に関する視聴覚教材，第7～8回は「日本の夏の伝統行事」に関する視聴覚教材，第9～11回は「日本の秋の伝統行事」に関する視聴覚教材を使用する。内容理解のための教材は,履修者のレベル（J4-6）に対応したものを用意・配布し,学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は，履修者の作文レベル（J4-6）に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。